

次のステージに向けて

山梨県

甲斐直心館

中学1年 小川倉史

私が剣道を始めたきっかけは、栃木県に住む祖父が剣道八段を目指す剣士であることと幼稚園の時に、祖母が探してくれた甲斐直心館が、文化庁から委託を受けて実施している甲斐市親子剣道教室に通うことになったことでした。

直心館と出会ったことで、多くの経験や思い出、心の支えとなる言葉を得ることができました。その中でも特に自分に影響していることは三つあります。

一つ目は、先生方や仲間たちとの出会いです。先生方には剣道に関することばかりではなく、日常生活にかかわる大切なことを教えていただきました。直心館の「直心（じきしん）」とは、人間が生まれ持った、素直でまっすぐな心という意味があります。私は稽古で、先生や先輩方からいただいた言葉を素直に聞くように心掛けてきました。このことによって自分の剣道が磨かれ、試合でも少しずつ結果を出すことができるようになりました。

また、「一眼二足三胆四力」という言葉も強く印象に残っています。この言葉は、剣道において大事な順番を表したのですが、一番大事なことは相手を見る「眼」です。相手を「見る」眼と、相手の心を「観る」眼を稽古で養うことです。次に大事なものは、「足さばき」。私は陸上、サッカーでも足を鍛えてきました。三番目の、胆力は「肚(はら)」、「度胸」のことです。四番目は、「力(りき)」ですが、パワーのことではなく、「技」を指します。剣道で、「技」が最初ではなく、四番目にきていることに初めは驚きましたが、剣道を続けているうちに、この言葉の意味がだんだん理解できるようになってきました。

二つ目は、自分の成長です。稽古は朝、夜にあり、暑い中、寒い中でも行われます。特に私は冬の朝稽古が苦手です。まだ暗い中、寒い中を行きたくないと思ったことが何度もありました。でも、実際に行って汗を流すと、「やっぱり

来てよかった一」と、毎回すがすがしい気持ちになり、充実した一日を過ごすことができました。この経験から、自分にとって嫌なことや苦手なことから逃げずに、つらいことを乗り越える力がついてきました。

三つ目は、貴重な剣道の経験です。私は小学六年生の四月に〈第五腰椎分離症〉というけがをしてしまい、約三カ月間、剣道から距離を置くことになりました。その中で剣道に対するやる気が失われていきました。もう、辞めてもいいという気持ちにさえなっていた矢先の夏に、全国道場少年剣道大会山梨県予選が行われました。直心館の館内予選で三人の団体戦選手に選ばれ、県予選では直心館が山梨県三位に入ることができ、全国切符をつかむことができました。直心館では初めての県代表切符でした。

その日から、全国大会に向けた残り稽古にも励みました。大会前夜は緊張と興奮で、あまり眠れませんでした。低学年のころから一緒に切磋琢磨してきた友人二人がそばにいてくれたことで、当日は緊張がほぐれ、リラックスして試合に臨むことができました。一回戦で負けてしまいましたが、日本武道館での試合は一生の思い出となるでしょう。このような貴重な経験ができたのは、先生方や館生の応援、両親、祖父母のサポートのおかげだと感謝の気持ちが湧き起こりました。

今、私は中学生になり、サッカーにも取り組んでいます。これから自分の人生には大変なことがいくつもあるでしょう。学校の勉強や部活動でも苦しくて逃げ出したくなることもあると思います。でも直心館で経験したことや学んだことを、部活動や勉強にも生かし、次の目標に向けて努力を続け、新しい自分を見つけていきたいと思います。

勝ち負けよりも、素直でまっすぐな心を持ち、真摯な姿勢で物事に取り組むことの大切さを教えてくれた先生方、じいじ、仲間たち。本当にありがとうございます。